

# 新規大卒者の離職率が減少！

3年以内の離職率は前年から1.6ポイントダウンの31.2%

旺文社 教育情報センター 2021年11月25日

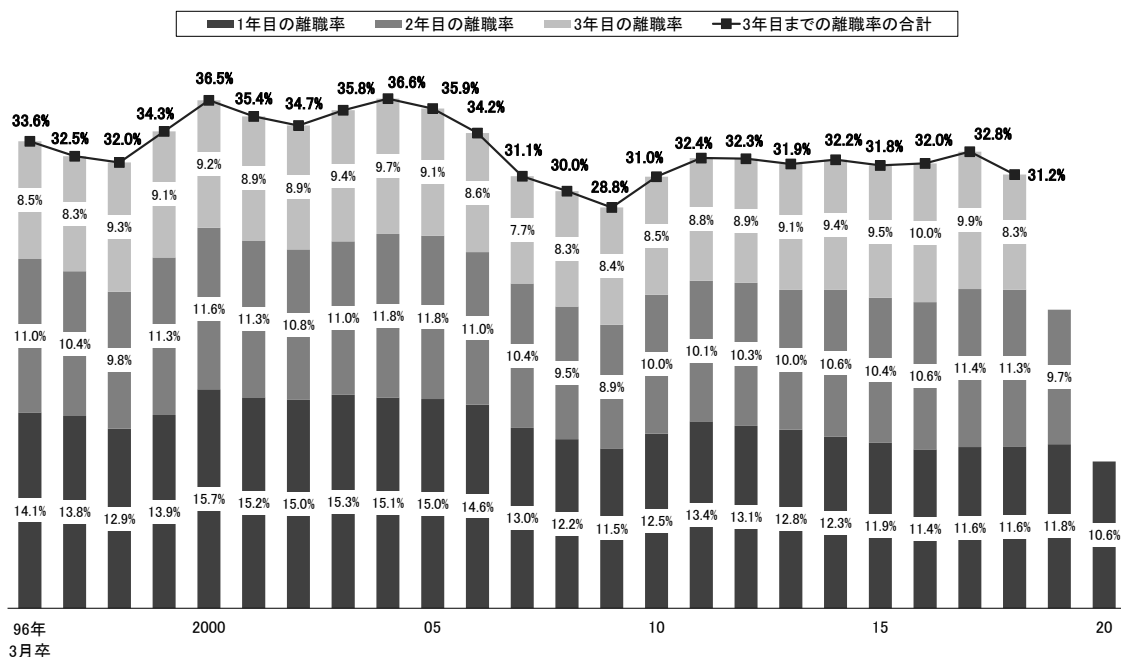
2018年3月に大学を卒業して就職した者のうち、3年以内の離職率は31.2%で、前年より1.6ポイントダウンだったことが厚生労働省の調査でわかった。就職して3年目、コロナ禍に見舞われた2020年度の離職率のダウンが、3年以内離職率の減少に結びついた。

- ・本稿のデータは「新規学卒就職者の離職状況」(厚生労働省/2021年10月22日)に基づく。
- ・新規学卒者として雇用保険の加入届が提出された者の生年月日、新規被保険者資格取得理由などから学歴ごとに新規学卒者と推定される就職者数を算出。さらに、その離職日から離職者数・離職率を算出。
- ・離職率は各年6月時点で把握した数値(例:2018年3月卒→3年以内離職率は2021年6月時点での把握数値)。
- ・3年目までの離職率は、四捨五入の関係で1年目～3年目の離職率の合計と一致しないことがある。ノ・短大には、専門学校等を含む。

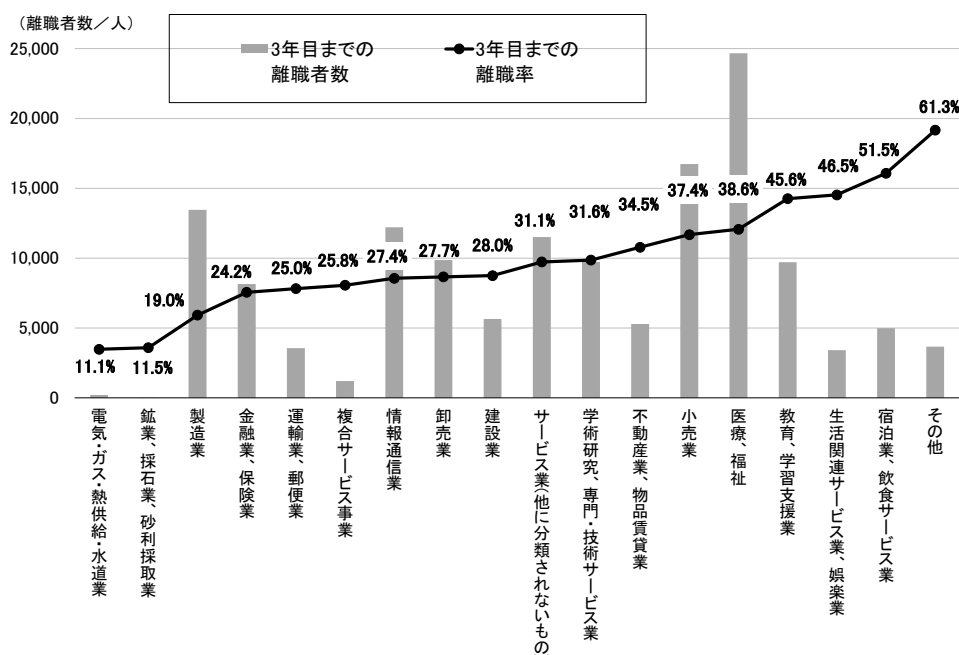
## ■コロナ禍の2020年度の離職率が減少

「新規大卒就職者が3年以内に3割離職」が恒常化しているなか、2018年3月大卒者の3年以内離職率は、前年より1.6ポイントダウンの31.2%だった。当該の大卒者の1年目と2年目の離職率は各々11.6%と11.3%。前年2017年3月卒業者の1年目・2年目離職率と、ほぼ同じ数値である。一方、3年目(2020年度)離職率は8.3%。過年度実績を見ても低率で、前年より1.6ポイントダウンした。2020年度は、2019年大卒者にとって2年目、2020年大卒者にとっては1年目にあたるが、これらの離職率も、前年よりダウンした。コロナ禍で人の流れが止まったこと、先行きの不透明感、国による雇用維持政策などは要因として考えられよう。

## ◇図表1 新規大卒就職者の離職率の推移



◇図表2 [産業別] 新規大卒就職者の3年以内の離職率  
(2018年3月卒業者)

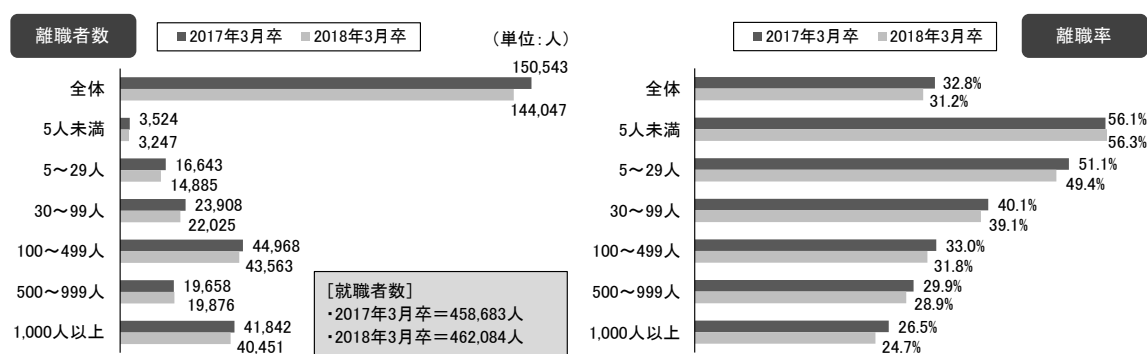


■多くの産業で離職率ダウン

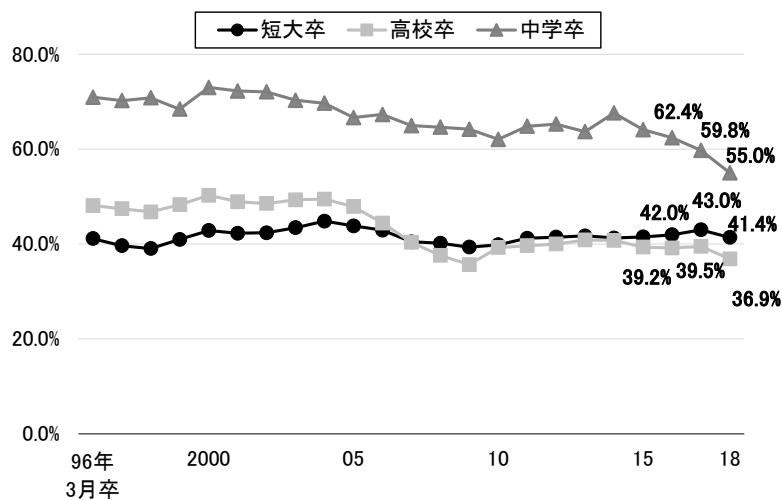
図表2で産業別に離職率と離職者数を見てみる。インフラ系の「電気・ガス・熱供給・水道業」の離職率がもっとも低く、「宿泊業、飲食サービス業」がもっとも高い(「その他」は除く)のは、例年通りで前年とも同じだ。一方で、離職率そのものは、ほとんどの産業で前年よりダウンした。離職率が前年より上昇した産業は、「不動産業、物品賃貸業」「医療、福祉」「生活関連サービス業、娯楽業」の3つで、0.2~0.3ポイントアップした。離職者数は、「医療、福祉」「小売業」「製造業」「情報通信業」の順に多い。母数となる就職者数の上位は、「製造業(7.1万人)」「医療、福祉(6.4万人)」「小売業(4.5万人)」「情報通信業(4.5万人)」の順。「医療、福祉」は就職者も多いが、離職者も多く、離職率が高くなっている。

図表3からは、3年以内の離職率が、ほとんど全ての規模別で、前年よりダウンしているとわかる。また、規模が大きくなるほど離職率自体が低いこともわかる。

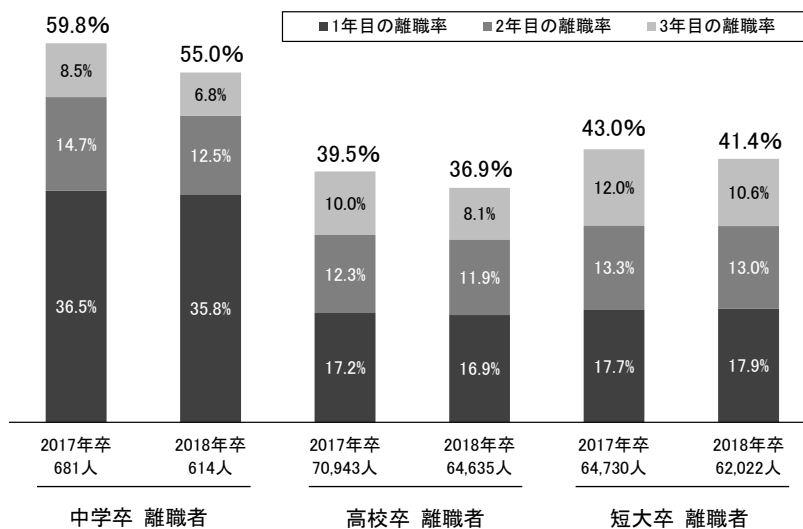
◇図表3 [事業所の規模別] 新規大卒就職者の3年以内の離職者数と離職率



◇図表4 新規短大・高校・中学卒就職者の3年以内離職率の推移



◇図表5 新規短大・高校・中学卒就職者の3年目までの離職率 (2017年・2018年3月卒)



### ■短大・高校・中学卒の就職者の離職率もダウン

2015年以降、約15万人が短大を卒業して就職している。2015年の卒業生以降、3年以内離職率は上昇傾向にあったが、2018年卒業生は1.6ポイントダウンとなった。こちらも、大卒就職者と同様に、1年目・2年目の離職率は、2017年卒業生と比べてコンマ数ポイントの増減だが、3年目にあたる2020年度の離職率が大きく下がった。

(2021.11 加納)